

序文 年報発刊にあたってご挨拶

長崎大学第二内科教授 迎 寛

第二内科年報は、河野 茂前教授が就任された平成8年から毎年発行されています。このたび、私が平成27年11月2日付で、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座 呼吸器内科学分野（第二内科）教授を拝命致しました。第二内科として7代目の教授であります。今回から河野先生に代わり、第二内科年報の序文を書かせていただくこととなります。

最初に私のこれまでの経歴の紹介をさせていただきます。長崎大学を卒業後、昭和60年に原 耕平先生が主宰されていた長崎大学第二内科に入局致しました。その後、一時、宮崎大学第三内科（留学も合わせ8年間）での勤務がありましたが、平成8年河野 茂先生が第二内科の第6代目の教授に就任された後、平成13年から長崎大学第二内科へ戻り、平成21年6月まで河野 茂先生のもと第二内科で勤務しました。平成21年7月には産業医科大学呼吸器内科学の教授を拝命することになり、約6年半産業医科大学で勤務しておりましたが、今回縁がありまして、母校・母教室へ戻ることになりました。

私が入局した当時の長崎大学第二内科には呼吸器、消化器、循環器、腎臓の4つのグループがあり、毎年20人を超える入局者がおりました。現在は医学部改革のあと呼吸器内科・感染症内科、腎臓内科のグループとなっています。呼吸器内科・感染症内科は河野 茂前教授の時代に全国の様々な大学に教授を輩出しており、何とかその流れを絶やさないように精進していくつもりであります。早速、今回第二内科の同門である池田裕明先生が長崎大学生

命医科学講座腫瘍医学分野の教授として、4月から就任されることが決まりました。とても喜ばしいことであり、今後第二内科としても様々な形で協力しあえればと考えております。また腎臓内科は西野友哉教授を中心に若い人材が多いのですが、しっかり団結して診療・教育・研究を行っています。現在、大学、特に地方の大学は厳しい環境となっており、医師数の確保、予算の削減等多くの難題を抱えております。その中でまずは多くの若い医師が集まってくるような魅力があり、楽しい医局作りを目指していきたいと思っております。

約6年半ぶりの長崎大学ですが、原 耕平先生、河野 茂先生をはじめ、歴代の偉大な先生方が主宰された教室を引き継ぐことはとても重責であります。何とか私なりに医局員や同門の先生方と協力し、伝統ある第二内科を守り、発展させながら長崎大学や地域医療のお役に立てるように尽力する所存であります。今後とも、先生方にはご指導・ご鞭撻のほどをお願いするとともに、皆様のご健勝やご活躍を祈念しながら、第二内科年報の序文とさせていただきます。